

社協 ほどがや

No. 48

【発行】
社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会(会長 畑尻明)

〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階 ☎:341-9876 FAX:334-5805
ホームページ: <http://www.shakyohodogaya.jp/> Eメール: h@shakyohodogaya.jp

会長就任あいさつ

昨年6月に保土ヶ谷区社協の会長に就任した畑尻明です。新型コロナウイルスの感染拡大のため、地域の福祉活動は縮小を余儀なくされるなど、様々な影響が続いています。このような時こそ、つながりや支え合いが大切です。そのためにも令和3年度からの「第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくり（地域福祉保健計画）」の推進を充実させたいと考えております。区社協も地域のみなさまに寄り添いながら、地域のつながりづくりを進めていきます。これからもご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



コロナ禍でも地域のつながりを途絶えさせないよう、実施方法を工夫し活動している団体も多くあります。みなさまの地域活動のヒントとなるよう区内の取組を紹介します。

感染対策を徹底し、利用者・ボランティアの不安を解消

和田・釜台地区社協では、ふれあい型食事サービス（会食会）、配食サービス、ミニデイサービス、たまり場（サロン）を行っていますが、昨年2月から一部中止、4月からは全事業を中止せざるを得なくなりました。

6月の緊急事態宣言解除を受け、運営委員でコロナ禍での活動方法を模索し、行政などから発行された会合開催時の対策マニュアル等を参考になんとか再開にこぎつけました。基本的な感染対策のほか、次の対策をとりました。

- ・体温測定、名簿（参加者・担い手）作成
- ・体調不良者（参加者・担い手）の参加辞退依頼
- ・フェースシールドの準備（たまり場「落語を楽しむ会」）
- ・使い捨ての食器への変更（ふれあい型食事サービス）

また、利用者・ボランティアへ感染対策の内容を丁寧に説明し、不安の解消につながりました。

ボランティアも利用者も今までと違う環境に戸惑いながらでしたが、お互いに元気な姿を確認し、笑顔で「お久しぶり」とあいさつ。地域のつながりの大切さを実感する再開でした。

(和田・釜台地区社会福祉協議会 会長 播口 輝二)



コロナ禍での健康状態に着目した講座の開催

外出自粛生活が続く、高齢者からは最低限の用事以外は外へ出ていない、一日中誰とも話していない、運動不足で足腰の状態がよくない等の声が聞こえてきました。新桜ヶ丘地区社協では、自身の健康状態を知ってもらうと同時に外の空気を吸ってもらおうと、今井地域ケアプラザの協力を得て「健康チェック講座」を開催。

内容は体組成計、握力、骨密度、血液の流れ、立ち上がり運動チェック、訪問薬樹薬局の管理栄養士による相談コーナーで、次のような工夫をしました。

- ・募集は各回10名の抽選形式
- ・当選者の体調確認・検温・マスク着用等
- ・室外の受付から出口まで一方通行
- ・相談コーナーは立席で短時間対応
- ・アンケートは簡単に聞き取り形式



アンケートでは「コロナ禍で動けない人が多いので講座を開催してくれてよかった」「健康に不安があったので目安になった」「久々に皆さんの顔が見られてよかった」といった声がありました。地区社協会長をはじめ、スタッフで通常より中身の濃い打ち合せを行ない、どう感染対策を実施し、地域活動を進めていけばいいか考える良い機会になりました。

(新桜ヶ丘地区社会福祉協議会 副会長 中村 好美)



コロナに負けない！地域のつながり

障害者地域活動ホームに通う利用者の想い

NPO 法人きてん 障害者地域活動ホームほどがや希望の家では地域で暮らしている障がい児・者に様々な支援を行っています。施設利用者から現在の状況をうかがいました。



僕達が感染対策に取り組み始めてから、1年が過ぎました。その様子を紹介します。

朝はまず、外の水道でしっかりと手を洗い、消毒をしてから中に入ります。車イスで通所している人は、タイヤをスタッフに洗ってもらいます。また、活動内容も午前は今まで通りですが、午後は毎日、スタッフの人達と一緒に建物内の掃除と消毒をしています。

他にも部屋に人が集まり過ぎないように分かれて活動したり、テーブルに仕切り板を付けたり、色々な工夫をしています。もう毎朝の手洗いや掃除にもすっかり慣れてしまいました。



ただ、いまだに慣れないなあ、辛いなあと感じるのが「お昼ご飯」です。今までは1つのテーブルをメンバーやスタッフで囲んで、おしゃべりしながら食べていました。でも今は、仕切り板で区切られたスペースで静かに食べています。必要なことだとは分かっているけど、どうしても慣れることができません。

これから先、「こうなって欲しい」といった要望は特にはありません。ただ、世の中がコロナの話題で染まってしまっていること自体が辛いので、一日も早くこの「病氣」が終わって欲しいと願っています。

ツイッターで情報発信を行った子育てサロン活動

「ピッコロ」は権太坂・境木地区の主任児童委員が中心となり運営している子育てサロンです。

コロナ禍により困ったのはサロン中止のお知らせなど情報の伝達でした。

そこで、手軽なツイッターを始めることにしました。

ツイッターを知ってもらうため、二次元コードを付けたチラシを掲示板に貼ったり、民生委員や地域の子育てサークルにお願いして宣伝しました。



今年度初めての活動である6月の外遊びは、ツイッターでまめに告知した甲斐あってか、多くの親子が参加してくれました。その後も外遊びを中心に活動を続け、8月は50人近くの親子が金魚すくいや水遊びを楽しみました。夏のイベントがない中で素敵な思い出になったと感想もいただきました。

ピッコロ恒例のクリスマス会はとても悩みましたが、予約制・二部制で開催しました。予約を開始すると数時間で予定人数に到達。当日は窓を開け換気を行う中、人形劇団「はまなす」の公演後、写真ボランティア団体「子育てエンジェル PATO 保土ヶ谷」にツリーの前で集合写真を撮ってもらいました。最後にクリスマスカードの工作キット等をプレゼント。みなさんの笑顔がうれしかったです。今年もできることを工夫して、地域の温かな交流が途絶えない活動をしていきたいです。



(権太坂・境木地区 主任児童委員 塚田 綾・鳴神 美穂子)

本誌掲載の活動に関するお問い合わせは保土ヶ谷区社協へ!

全社協 新型コロナ 福祉活動・ボランティア活動

検索

『新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方』が全社協 地域福祉・ボランティア情報ネットワークより出されています。みなさまの活動のヒントになると思いますので、ぜひご覧ください。

あったかほどがや寄付報告（食支援）

令和2年6月下旬から8月末まで実施した「あったかほどがや寄付」の取組は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で収入が激減し、生活に困っている保土ヶ谷区内の若い世代を食支援で応援し、“地域のあたたかさを感じてもらいたい”という目的のもと行いました。

従来の銀行振込や窓口での受付に加え、二次元コードのフォームからクレジットカード決済で寄付ができる仕組みを新たに導入し、1,252,006円が集まりました。



皆様から頂いた寄付金で、お米やカップ麺、レトルトカレー等の食品を購入し、企業や地域の皆様からの寄付物品（日用品等）とあわせて、区内在住・在学の学生や子どものいる家庭へ提供しました。

学生向け食支援では、「地域でも学生を応援したい」という思いから、横浜国立大学がある常盤台地区の民生委員や地区社協の皆様にもご協力いただき、あたたかな配分会となりました。

学生からは、「一人暮らしが保土ヶ谷でよかった」「地域のつながりの大切さを実感した」「いつか恩返しできるように頑張りたい」といった感謝のメッセージが寄せられました。

また、子どものいる家庭向け食支援では、「シングルマザーで病気になってしまったので、本当に助かった」等のお礼の声やたくさんのお菓子を喜ぶお子さんの姿を見ることができました。ご協力ありがとうございました。



～善意銀行のご案内～

本会では、区民の皆様からの善意の寄付を受け付けています。いただいた寄付金は保土ヶ谷区ふれあい助成金の原資の一部として、区内のボランティア団体など地域福祉活動支援に役立てられています。

◇寄付方法◇

区社協窓口（平日9時～17時）

銀行振込：横浜銀行 和田町支店（普通）0342527

社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会 善意銀行



つながりをたやさない社会づくり ～赤い羽根共同募金～



今年度の共同募金運動は、全国共通テーマとして「つながりをたやさない社会づくり」を掲げて、新型コロナウイルス感染症によって生活支援を必要とされる方々への緊急支援事業や災害支援事業とともに、地域福祉を推進してまいりました。

昨年10月から12月までに行った赤い羽根共同募金運動で、皆様からお寄せいただいた寄付金は、赤い羽根募金（一般募金）9,355,015円、年末たすけあい募金5,820,620円でした。（令和2年12月末現在）

赤い羽根共同募金は、保土ヶ谷区内の子どもや高齢者、障がい者を支援する地域福祉活動や、福祉施設の施設整備費、災害被災者支援活動などに役立てられています。多くの皆様からの温かいご支援に、心より感謝いたします。

LINE Payからも募金ができるようになりました。

※領収書の発行はできません。

※決済手数料を差し引いた額が寄付されます。



地域のみんなを対象に・地域のみんなで進めよう

「第3期保土ヶ谷ほとなまちづくり（地域福祉保健計画）」も今年度で計画最終年度を迎えました。この5年間で区内ではこんな取組が進みました。

- ★地域食堂（子ども食堂）やサロンなど気軽に集える居場所づくり
- ★生活のちょっとした困りごとをボランティアで支援する取組
- ★フードドライブなど、区民や企業等が生活にお困りの方への食糧支援に参加できる環境づくり
- ★ホームページやブログ、SNSを活用した情報発信や、二次元コードを活用し、情報にアクセスしやすくする工夫

令和3年度から始まる第4期計画では令和7年度までの5年間の目標を定めています。誰ひとり孤立することなく、支えあって暮らせるまちにするために、どうかあなたの手を貸してください。

コロナ禍のおうちでもできるボランティア

新型コロナウイルス感染症拡大により、福祉施設内でのボランティア活動が難しい状況が続いています。そこで、自宅で季節飾りを制作したり、音楽演奏の動画を撮影したりし、区内の福祉施設の利用者に届ける取組を行いました。

施設の方からは「久しぶりにご利用者の笑顔を見ることができた」「早くボランティアの方々が活動できる普通の日常になることを願っている」といったコメントが寄せられました。今後も新しいボランティア活動を続けていきます！



ボランティア緊急大募集

地域支援事業所 ダンボ（和田1丁目）	利用者さんの送迎（セレナ等） 火～金 9:00～10:00（曜日応相談） 謝金：1500円（交通費含む）69歳まで
もみの木第2作業所（旭区小高町）	利用者さんの送迎（リフト付き車両） 朝・夕方各1時間半（曜日応相談） 謝金：1回1500円（交通費含む）69歳まで
もみの木第2作業所（旭区小高町）	日中活動（平日10:00～15:00） 謝金：1日1500円 昼食作り（平日10:00～13:30） 謝金：1日1000円 60代までの女性希望
もみの木第1作業所（旭区市沢町）	日中活動（平日10:00～15:00） 謝金：1日1500円 60代までの女性希望

詳しくは、保土ヶ谷区ボランティアセンターまで ☎045-332-2412

保土ヶ谷区ふれあい助成金

地域福祉の推進を目的とした事業を実施する区内のボランティアグループや市民活動団体、障害当事者団体等への助成を行っています。

令和3年度ふれあい助成金は令和3年3月1日（月）より受け付けします。詳しくは右記の二次元コードから本会ホームページをご確認いただくか、お電話にてお問合せください。

保土ヶ谷区ふれあい助成金は、みなさまからお預かりした「赤い羽根共同募金」や「善意銀行」の寄付金を財源に実施しています。



令和2年度社会福祉功績者表彰式典

令和2年12月1日（火）保土ヶ谷区役所にて、令和2年度保土ヶ谷区社会福祉功績者表彰式を行いました。

- 田中 末美様（上星川配食会でのボランティア活動）
- 西園 富江様（ほっとするサロン上星川でのボランティア活動）
- （医）産和会 磯産婦人科医院（善意銀行への金品寄付）



畑尻会長 田中末美様



新型コロナウイルス感染症への取組 ～日本赤十字社～



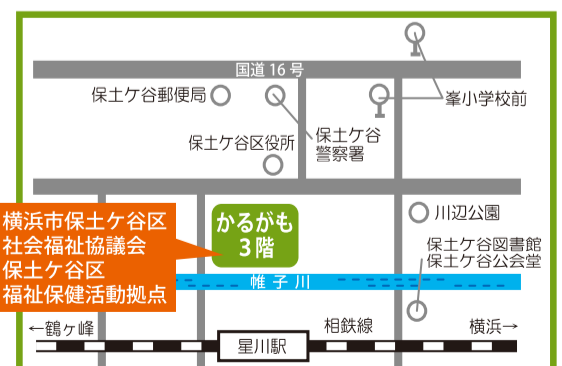
日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症への取組や災害への備えをはじめとした、いのちと健康・尊厳を守る活動をしています。

昨年2月のクルーズ船集団感染では神奈川県新型コロナウイルス感染症対策本部や赤十字近隣支部と情報共有を行い、医療救護対応にあたりました。また、救護資機材等の貸出・横浜市立みなと赤十字病院DMATチームの支援要員の派遣を行いました。皆様からいただいた募金11,210,425円（令和2年12月末現在）はこうした様々な赤十字活動に活用されています。今後とも皆様の温かいご支援お待ちしております。

編集後記

高齢者との触れ合いや、学童見守り、清掃美化活動をしていると、"ありがとう！頑張ってる！"と、励まされる。とにかく一歩でも前へ、動こう。そこに出会いやご縁が生まれるかもしれない。絆を深めるキッカケが生じるかもしれない。

"春風や コロナ収束 願う空"
編集委員長 根本和治



*この広報紙は共同募金の配分金を活用して発行しています。

*この広報紙のデジ版を、保土ヶ谷録音グループ「はし」の協力により発行しています。ご希望の方は保土ヶ谷区社会福祉協議会までご連絡ください。

【編集委員】根本 和治（委員長）・中村 好美（副委員長）・遠藤 亮介・齊藤 誠
菅沼 久美子・播口 輝二・島田 直樹・大久保 節子